

## 共 同 声 明

### アジア船主フォーラムシップリサイクリング委員会 第9回中間会合で採択

ASF シップリサイクリング委員会第9回中間会合が、2006年3月6日に台北で開催された。同会合には、ASFメンバーである中国、台湾、香港、日本の各船主協会より10名の代表が出席した。出席者リストは添付のとおり。

同委員会は、台湾船協が主催し、ASFシップリサイクリング委員会委員長のDr. Frank F. H. Lu氏を議長として議事が進められた。

1. SRCは、最近のシップリサイクル活動の状況についての集中議論の中で、過去数年間にリサイクルされた船舶の量が、主に堅調な海運市況の影響により、予想より遥かに少なかったことに留意した。しかしながら、シングルハルタンカーのフェーズアウトや既存船の年齢構成などの要素を考慮すると、近い将来に海運マーケットから撤退する船舶の数は増加するものと想定される。本委員会は、そのような老朽船が円滑にリサイクルされることの重要性を再確認し、世界における十分なシップリサイクル能力を確保する必要性を強調するものである。

2. 一方で本委員会は、シップリサイクルに係る環境・労働安全衛生上の危険性に対し高まる懸念を改めて認識するとともに、環境上適切なシップリサイクルを促進する必要性を再確認した。世界のシップリサイクル能力の縮小を招かぬよう、シップリサイクル業界と外航海運業界の特徴を考慮しつつ、シップリサイクル業界の安全と環境のレベルを段階的に改善するという注意深くかつ着実なアプローチが追求されなければならない。

3. SRCは、上述のアプローチは海運、造船、船用およびシップリサイクル業界を対象として世界的に適用される“新しい”法的拘束力のある制度により達成されるという考えを共有し、シップリサイクルに係る条約の策定に向けた国際海事機関（IMO）の作業を全面的に支持するものである。本年3月に開催される第54回海洋環境保護委員会（MEPC 54）において同条約に関する詳細な議論が開始される予定であり、有益かつ着実な審議の進展が期待される。

4. 本委員会は、アジアの船主が、世界の海運業界の主要なプレーヤーとして、実効性かつ実行性ある条約の確立に向けて、造船、船用、シップリサイクル業界と協調しつつ、IMOにおけるシップリサイクル条約の策定に各国の政府を通じて貢献することを確認した。

以上